

親の会 だより

第97号

発行日：R元.7.5

発行

岩手県ことばを育む親の会

会長：主濱 友子

事務局

盛岡市立桜城小学校

きこえとことばの教室内

《岩手県ことばを育む親の会紫波・矢巾大会》

六月十五日（土） 田園ホールにおいて、県親の会大会紫波・矢巾大会が、来賓等を含め三百名を超す参加者により盛大に開催されました。

主催者である県親の会会長 主濱友子、実行委員長 滝澤真千子の挨拶に続き、本会の充実・発展に寄与されました十六名の方々の表彰を行いました。

続いて、紫波町長、矢巾町長、岩手県教育委員会教育長、岩手県難聴言語障がい教育研究会会長の四名の方々から祝辞をいただきました。

その後、講演会・座談会が行われ、大会副実行委員長の蒲生麻衣子より大会宣言が行われ、閉会となりました。

多くの方々の協力と連携が感じられる大会となりました。

講演会

講演は、元盛岡市立中野小学校校長の野口晃男先生が、「子育て・孫育て・自分育ち く今こそ伝えよう日本人の心」という演題でお話しくださしました。

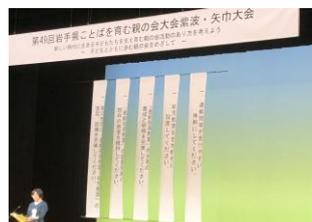
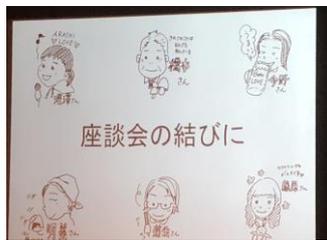
野口先生の子どもの頃の遊びや様々な子育てのヒント、孫育ての楽しみ、自分育ちについて沢山お話ししてくださいました。参加者からは「親として先生のお話のように対応できたら、子どもも伸び伸びと育つだろうと思った。」「広い心で子育てをしたい。」などの感想がありました。



座談会

「親の思いを通して、親の会活動を考える」と題して、橋本政樹元紫波支部会会長を座長に、前紫波支部会会長、現紫波支部会会長、紫波支部OB会員、現矢巾支部会会長、副会長の六名で座談会が行なわれました。

お子さんがことばの教室に通級したことで、親の会に入り、活動を始めたことや、その中で幼児教室の必要性を感じ、設置に向けて活動してきたことなど、それぞれの立場から話されました。また、ビデオで紫波町の幼児ことばの教室の担当である熊谷幸子先生のインタビューの紹介があり、幼児教室の様子がよくわかりました。「両支部がこの紫波・矢巾大会に向けて協力して活動してきたように今後もいろいろなかたちで交流し、活動していきたい。」「子どもが通級したことで、親も一緒に成長していきたい。」などのお話がありました。和やかな中にも、親の会の活動の在り方や方向性を具体的に示してくれたすばらしい内容でした。



《県親の会総会》

紫波・巾大会に引き続き、今年度の総会が開催されました。来賓の岩手のことばを語る会 副会長 坂本信行氏にご祝辞をいただきました。

事務局より昨年度の活動経過報告・決算報告があり、今年度の活動方針・事業計画・予算案が提案され可決されました。協議の中では、県への要望についての質疑、予算の効率的執行についての意見等をいただきました。また、今後二年間の役員として次の方々を選任されました。

会 長	主濱 友子(再任)	林 義明(再任)
副会長	岡崎 清弘(再任)	櫻岡 正久(再任)
	小崎 真樹(再任)	
事務局長	小原 俊彦(再任)	
会計監事	橋本 政樹(再任)	田口 好子(再任)

《NPO法人

《全国ことばを育む会 総会・研修会》

六月一日(土)～二日(日)に東京(福祉財団ビル)

において、令和元年度の総会・研修会が開催されました。

一日目の研修会では、言語・情緒に特化しない通級指導教室を設置している高崎市の現状について、群馬県高崎市通級指導教室(金古教室) 峯岸幸弘先生を講師に、「通級指導教室の学びーことば・きこえ・こころー」と題した講演がありました。高崎市では、十年間で通級児童数が二・五倍に増加しましたが、指導時間の工夫やグループ指導を行い待機させない方針であるという話でした。

二日目の総会では平成三十年度の報告、令和元年度の計画及び定款変更について協議を行い、その後「全国調査結果」及び国への要望内容について意見交換、今年度の長野大会の準備状況の報告等がありました。



《全国難聴児を持つ親の会代表者研修会・総会》

六月二十二日(土)二十三日(日)に東京において、「全国難聴児を持つ親の会研修会・総会」が開催されました。

一日目の研修会では、厚生労働省と文部科学省が連携し、難聴児の早期支援にむけたプロジェクトを立ち上げたことについての報告を聞くことができました。地域格差を解消し、全ての難聴児とその家族に、早期に適切な支援と情報を届けるために必要となる保健・医療・福祉・教育の連携に向けた具体的な取組について検討されたこと。今後、関係機関が連携し、一体となって難聴児への切れ目のない支援を行うための取組を全国各地で早急に実行に移していくという内容でした。

総会では、平成三十年度の報告、今年度の役員と活動について協議されました。二日目の講演会では、学習言語の獲得には幼児教育が大切なこと、生活言語は経験が大きな影響を与えるという内容でした。また、問題解決力をつけるために、自己理解、他者との客観的な比較、状況改善を適切に求めることを身につけるといようなセルフアドボカシーという考え方について学ぶことができました。

県親の会からのインフォメーション

◎ブロック研修会が、県内八つのブロックに分かれて行われます。情報の共有や日頃の思いを話題にした交流、学習会の開催など、各支部の活性化に役立ててください。なお研修の内容や話題等について県事務局にもお知らせください。

◎「第三十七回 幼児期の言語教育研修講座」

・日 時 令和元年八月二十四日(土) 九時三十分～

・会 場 いわて県民情報交流センター(アイーナ 八階)

※各支部親の会会員の皆様による「案内文書配付」のご協力で感謝申し上げます。参加の申し込みが届いております。